

2024年度第一回臨時総会資料

目次

1.日本学生オリエンテーリングについて.....	2
2.インカレ枠配分について.....	5
3.春インカレ幹旋について.....	10

1.日本学生オリエンテーリングについて

日本学生オリエンテーリング連盟とは？

- 学生オリエンティアの集まり（学生全員が構成員）
- 大学ごとに加盟

※ 2名以下は準加盟（議決権なし）

また、大学院などは合同加盟もできる

なにをやってる？

- インカレの実施 →実行委員会に移管
- テレインの管理 →事業者と協力して
- その他企画 ex. 学連合宿 アイデア募集してます！
- 事務作業/対外的な窓口

日本学連の組織

- **総会** … **組織決定の場所**
- 地区学連 … セレの実施/色々な企画
- 幹事会 … 事務作業、前段階の議論

- 理事会 … アドバイス、議論
- 各委員会 … 専門的な業務(?)
- インカレSPU … インカレの準備

議題

1. 役員の承認
2. インカレ枠配分・学生日本ランキング
3. 春インカレ幹旋
4. 日本学連所有のトレイン(矢板・日光)の利用

1. 役員の承認


- 事業部長 森創之介 (横浜国立大学3)
- 広報部長 西澤汰知 (東北大学3)
- 普及部長 石塚陽広 (大阪大学3)
- 渉外部長 久保田結理 (東北大学3)
- 事務局長 川瀬智尋 (奈良女子大学3)
- 会計 石川翔太 (東京大学3)
- 会計監査 桑原唯歩 (横浜国立大学4)
- 会計監査 岩崎壮馬 (大阪大学3)

1. 役員の承認

- 北東学連幹事長 坂本拓登 (北海道大学3)
- 関東学連幹事長 古谷那奈 (千葉大学3)
- 北信越学連幹事長 森田龍雲 (新潟大学3)
- 東海学連幹事長 春田智哉 (名古屋工業大学3)
- 関西学連幹事長 吉川浩太 (大阪大学3)
- 中九四学連幹事長 加藤優拓 (広島大学3)

2. インカレ枠配分について


学生日本ランキングに関して



日本学生オリエンテーリング連盟 技術委員会
2024/7/9

the inter-University Orienteering Federation in Japan All Rights Reserved.

本発議の背景



前回の日学総会において来年度以降の枠配分に日本ランキングを用いることが決定。
(日本ランキングによる内定者 + ランキングによる各学連への枠配分 + 各学連に枠配分)

その後、5/18 に実施されたJOA理事会にて、以下の内容が決議された。

2025年度より、女子についても日本ランキングはポイント上位3レースを算出対象とする。
(現行は男子対象3レース/女子対象2レース)
※詳細は次頁参照

については、2025年度以降の枠配分制度について、日本学連内で再度議決を採る必要がある。

the inter-University Orienteering Federation in Japan All Rights Reserved. 2

審議事項詳細(JOA議案資料より抜粋)



1. 改定理由

女子のランキング精度向上のため

2. 改定時期

2025年度全日本ミドルロング、スプリントに向けたランキング (Road to 2025) より適用 / 2025年度年齢別ランキングより適用

3. 補足

日本ランキング開始当初は日本ランキングのシミュレーション実施時に対象となりうるレースへの参加数が乏しかったため対象レース数を男子3、女子2としていた。しかし、改めて2023年11月にシミュレーションを行ったところ、**対象2レースの女子ランキング50位以内でレース数が3レースに満たない選手はフォレスト1名、スプリント3名**となっており、**改訂が可能な状況になったと考えスプリント委員会と検討を開始した。**

女性委員会、アスリート委員会にも意見を求めたところ、「**対象レース数が2レースだと全日本大会の結果が強く反映されてしまうので精度向上のために3レースに変更してほしい**」という意見を多数いただいた。

本規則が改訂になった場合、実質本規則が関係するのは2024年9月開始のRoad to 2025 (フォレスト)、2025年1月開始のRoad to 2025 (スプリント)、2025年4月開始の2025年度年齢別ランキング、という順で適用がなされる形となる。広報期間は十分と考えている。

投票内容 1



以下のいずれかを選択する必要がある。

1. **日本ランキングと全く同じ仕様とし、仕様変更を全て受け入れる**

将来的に日本ランキングに仕様変更があった際も、変更後の仕様に則る。

【メリット/デメリット】

- ・ 今後も日本ランキングとともに仕様が改善されていく
- ・ コスト 低 ; 初年度10万円のみ
- ・ 仕様変更の度に議論する必要がなくなる。

2. **基本的に日本ランキングと同じ仕様だが、仕様変更は都度議論する**

今後は日本ランキングの算出ロジック変更のみ受け入れる。

その他の仕様変更を受け入れるかは、都度日本学連内で議論が必要。

【メリット/デメリット】

- ・ 仕様変更が重なるにつれ、仕様が日本ランキングと乖離していき、意図せぬ弊害が生じるリスクがある
- ・ 仕様変更の度に、仕様を受け入れるか否かの議論が必要になる
- ・ コスト 中 ; 初年度10万円 + 2年目以降5万円/年

投票内容 2

先述の投票により2に決定した場合のことも考え、今回の「女子対象3レース」の仕様を受け入れるか否かも投票で決定する。

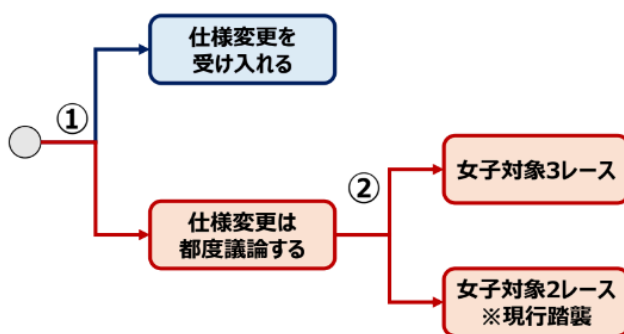
1. 女子対象を3レースとする

【メリット/デメリット】

- 多くの学生が対象レースを3本揃えられる場合、対象が2本のときより正確に実力を反映する（レース格差が小さくなる）
- 3本揃えられない学生多数の場合、逆に正確に実力を反映できない恐れ

2. 女子対象を2レースのままとする（現行踏襲）

(補足) 決議のとり方



Google Formsにて、

① 今後の仕様変更を受け入れる/都度議論するに投票

② 「仕様変更は都度議論する」に投票した加盟校は女子対象3レースに対する賛成/反対を投票

※ 「仕様変更を受け入れる」に投票した

加盟校は「女子対象3レース」を支持するものとみなす。

参考資料 2024年6月末時点での女子選手のランキング大会出走状況

フォレスト

学生内順位			出走本数	出走本数分析	
1	山崎葵	筑波大学	10	2本以下	1
2	樋口佳那	筑波大学	10	3本以上	39
3	藤原唯歩	KOLC/静岡C	9	計	40
4	林明穂	東北大OLC	7		
5	落合英那	京都大学3	9	中央値	6
6	角本柚香	京都大学4	10	平均値	6.35
7	岩城美奈	東北大OLC	8		
8	砂田優萌子	東大OLK	10		
9	川瀬智尋	奈良女子大	9		
10	中野友貴	名古屋大学3	12		
11	牧依瑠香	早大OC	10		
12	藤澤ゆい	神戸大学4	10		
13	羽岡美紀	京都大学4	6		
14	中館美卯	KOLC	6		
15	宮川葵衣	早大OC	8		
16	平澤葵	KOLC	7		
17	小野萌菜	千葉大OLC/	6		
18	小野塚智美	筑波大学	9		
19	濑子照実	東大OLK	6		
20	鷲津加子	東北大OLC	8		
21	西川真由	早大OC	6		
22	富田明花	千葉大olc	5		
23	安部紗也佳	KOLC	6		
24	伊東京香	早大OC	6		
25	河内絵里香	東大OLK	8		
26	山本佳奈	早大OC	7		
27	鈴木万結	早大OC	6		
28	溝端昭子	入間市OLC/	11		
29	坂池なつほ	筑波大学	6		
30	相葉莉子	KOLC	7		
参考-40位					
31	大音紗希	北大OLC	4		
32	小川奈葉	筑波大学	3		
33	久保田結理	東北大OLC	6		
34	田切香帆	北大OLC	3		
35	笹村和加	岩手大学OL	3		
36	村井涼香	京都女子大	2		
37	黒澤香穂	京都大学2	4		
38	佐塚真奈	北大OLC	5		
39	高梨史重	KOLC	5		
40	青木由奈	早大OC	3		
年齢別フォレスト 無差別ランキングより作成(6月末時点)					
出走1本のみランキング相当に該当する選手は0人であった。					

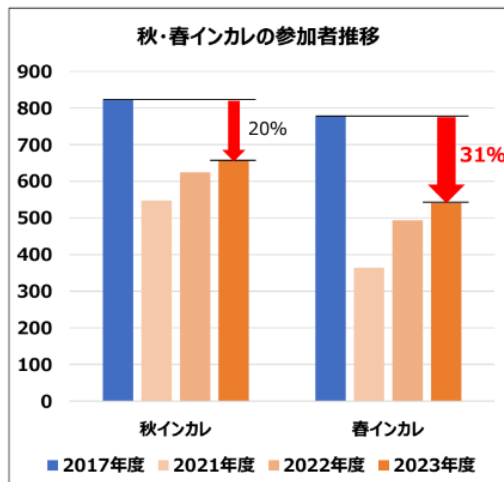
スプリント

学生内順位			出走本数	出走本数分析	
1	桑原唯歩	KOLC/静岡	9	2本以下	14
2	樋口佳那	筑波大学	8	3本以上	32
3	山崎葵	筑波大学	10	計	46
4	松屋晴乃	神戸大学3	4		
5	落合英那	京都大学3	4	中央値	3
6	川瀬智晶	奈良女子大	6		
7	鷺津加子	東北大OLC	3	平均値	3.80434783
8	小野塚智美	筑波大学	7		
9	中館美卯	KOLC	2		
10	藤澤ゆい	神戸大学4	6		
11	牧依瑠香	早大OC	5		
12	小野萌菜	千葉大OLC	3		
13	砂田優萌子	東大OLK	7		
14	羽岡美紀	京都大学4	3		
15	林明穂	東北大OLC	5		
16	杉田瑠菜	京都大学2	4		
17	藤子照実	東大OLK	4		
18	山崎有里彩	KOLC	2		
19	沼田奈津	京都大学3	3		
20	黒澤香穂	京都大学2	4		
21	平澤葵	KOLC	3		
22	中野友貴	名古屋大学	3		
23	岩城美奈	東北大OLC	6		
24	久保田結理	東北大OLC	3		
25	鈴木万結	早大OC	4		
26	角本柚香	京都大学4	2		
27	西川真由	早大OC	2		
28	安部紗也佳	KOLC	6		
29	坂池なつほ	筑波大学	5		
30	片岡明日香	千葉大OLC	3		
参考~40位、1本のみ選手					
31	坂上直登	千葉大OLC	2		
32	伊東京香	早大OC	3		
33	山中望	東大OLK	5		
34	渡邊朋香	京都大学3	2		
35	富川葵衣	早大OC	4		
36	田谷夏姫	筑波大学	3		
37	香西彩名	東北大OLC	2		
38	古谷那奈	千葉大OLC	4		
39	細野泉	東大OLK/入	6		
40	太音紗希	北大OLC	2		
出走本数1本だがランキング相当の選手					
	佐藤真奈	北大OLC	1		
	三浦花梨	早大OC	1		
	金道志野	KOLC	1		
	中西澄海	東北大学2	1		
	原田瑛歩	早大OC	1		
	佐々木怜奈	阪大OLC	1		
年齢別スプリントランキング 無差別ランキングより作成(6月末時点)					

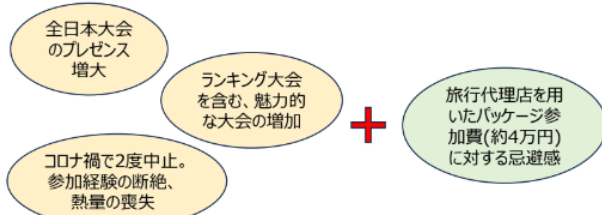
3.春インカレ幹旋について

春インカレ改革検討：議論の起点

2023年度現在、学連加盟員数はコロナ禍以前の水準に戻りつつあるのに対し、春インカレの学生参加者減少が著しい。このため、幅広い参加者層によって支えられていた「学生選手権」としての価値観・存在感を失いつつある。



春インカレを取り巻く状況



本議論の趣旨

学生・大学日本一を決める「選手権」としての春インカレ復権を目的とし、幅広い参加者を集めるための改革を行う。今回は参加ハードルを下げるための参加費にフォーカスし、今後の開催方向性を定義する。

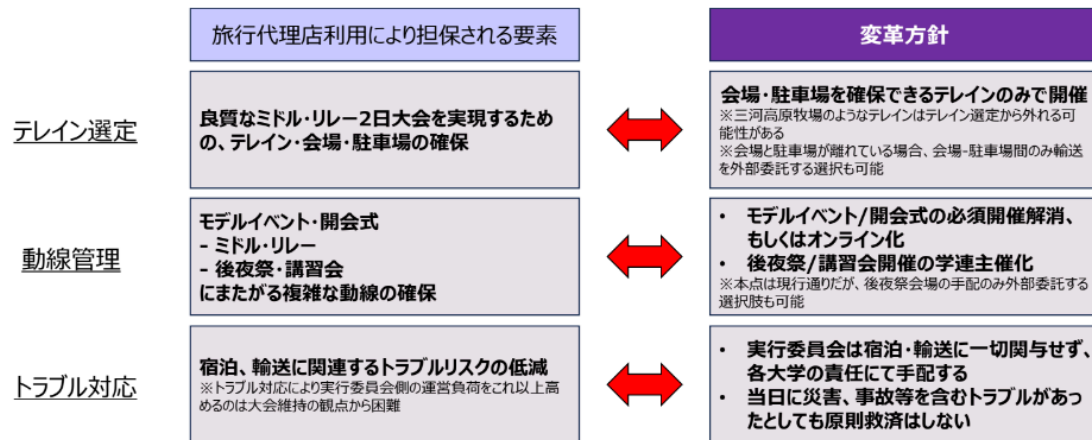
春インカレ改革検討：春インカレ特有の課題

現在の春インカレは旅行代理店を利用することで進行上のトラブルリスク低減・運営負荷の適正化を実現している。そのため、参加費低減目的の安直な「旅行代理店利用の廃止」は春インカレの継続性自体を脅かす可能性がある。

	春インカレ	秋インカレ	全日本大会	クラブ対抗7人リレー	春インカレ特有の課題 (=旅行代理店を利用する必要性)
開催形態	2日間 (ミドル・リレー)	2日間 (スプリント・ロング)	2日間 (ミドル・ロング)	単日 (リレー)	<ul style="list-style-type: none"> 良質なミドル・リレーを両立するための、テレン/会場/駐車場の確保 初日後のリレーアウト設営、リレーの早朝スタートによる強いスケジュール制約
開催主体	インカレ実行委員会 (経験が浅い若手主体)	インカレ実行委員会 (経験が浅い若手主体)	全日本大会実行委員会 (事業者を含む、経験豊富なメンバー主体)	NishiPro (事業者)	<ul style="list-style-type: none"> 動線が複雑なため、参加者の動向把握のニーズが高い 経験が浅い若手のボランティアが主体のため、運営負荷をこれ以上高めるのは大会維持の観点から困難
付帯イベント	<ul style="list-style-type: none"> モデルイベント 開会式 後夜祭/講習会 	<ul style="list-style-type: none"> モデルイベント 	<ul style="list-style-type: none"> モデルイベント 	<ul style="list-style-type: none"> アフタートレーニング 	<ul style="list-style-type: none"> 前日イベント(モデルイベント/開会式)と後日イベント(後夜祭/講習会)の存在に伴う、参加者動線の複雑化

春インカレ改革検討：アレンジ可能な領域とトレードオフの条件

旅行代理店を利用した宿泊・輸送斡旋の中止した際に生じる制約条件を踏まえ、春インカレの継続性を脅かさず実現可能な改革案を検討する。



春インカレ改革検討：日光地区の特性を踏まえた春インカレ2024の方針

トレードオフの条件を踏まえれば宿泊輸送斡旋なしでの開催は可能、しかし2024年度春インカレを予定している日光地区では取り巻く特殊な状況を踏まえて、以下の方針で開催検討を進めるものとする。

日光地区を取り巻く特殊な状況

日光地区とは長年観光協会と宿泊斡旋を通じて良好な関係を維持してきた

↓

日光は観光協会の力が強いので

「いつも来ているオリエンテーリングのひとたち、今年もやっているようだけど来なかったな…」

と思われる、地元心象がこじれるリスクがある

※日光観光協会とは「旧日光市街エリア」を指し、鬼怒川エリアなどは範囲外

↓

【上記を踏まえたICMR2024適用案】

- ・ 交通斡旋は実施しない
- ・ 宿泊斡旋は実施する

春インカレ改革検討：2025年度以降の春インカレの開催方向性

2024年度の変更への反応を注視しつつ、2025年度以降の春インカレでは以下の方針で開催を検討していく想定。

2025年度以降の春インカレ開催方針

- ① 旅行代理店による宿泊・輸送斡旋をしない
- ② モデルイベントは開催必須とせず、実行委員会の開催判断に委ねる

※開会式・後夜祭・講習会はインカレ本体と切り離し、学連による主催が可能な場合のみ開催可とする

【制約条件】

上記方針に賛同する場合は、学生加盟員側は以下条件を受け入れるとする

- ・ 会場/駐車場の確保を優先したテレインの選定
- ・ 宿泊、輸送の確保は各大学の責任にて実施する
- ・ 宿泊施設の確保、会場への移動中のトラブル、またそれらによりスケジュールを守れなかった場合等も、実行委員会側からの救済は原則実施しない

【参考】

上記方針の場合、春インカレ参加費は1万円前後になると見込まれる

※これまでにない形式のため、実行委員会にて予算を組んだ際に参加費が変動する可能性アリ

※当然宿泊等の要否は各団体に委ねるため、その費用は含まない

	項目	単位	金額
必須	① 基本参加費	選手	1人 8,500円
		チームオフィシャル	1人 8,000円
	② 宿泊費・輸送費	2泊・1人	32,700円
追加	③ ミドル・ディスタンス競技（選手権の部）登録費	1人	+1,500円
	④ リレー競技「選手権の部」登録費	1チーム	+4,500円
任意	⑤ Eカードレンタル	1人	+500円

2023年度春インカレ参加費内訳